'92 7月号 No. 477

京交山岳部報

【第１８９３回例会】★★

夏山合宿トレーニング

比叡山・横高山
水井山・大尾山

日　時　７月11日（土）
集　合　叡山電鉄修学院駅前　ＡＭ８：00
コース　修学院駅…雲母坂…比叡山…横高山…水井山…仰木峠…大尾山…三千院…大原
担当者　大塚孝之（工事課　内765）
　　山岡昭弘（事務効率課　内715）
備　考　夏山合宿トレーニング最後の仕上げです。
・１／５万図　京都東北部

【第１８８６回例会】★

知世路谷山

日　時　７月11日（土）
集　合　壬生　ＡＭ８：00
コース　壬生－原池－△知世路谷山（往路下山）
担当者　大槻雅弘（経営推進課　内504）
備　考　この例会は日程を延期しております。マイカー登山しますので，担当者へ申し込んで下さい。

【第１８９４回例会】★★

丹波の山

日　時　７月12日（日）
集　合　山陰線花園駅　ＡＭ６：38発
コース　宮福線大江山内宮駅…城山△427ｍ…北原…・717ｍ…Ⅳ626ｍ…二瀬川…△470ｍ…毛原…大江山内宮駅…花園駅
担当者　伊藤潤治（自463－4936）
備　考　１／５万図　大江山

今月の集会

日　時　７月13日（月）　ＰＭ６：00
場　所　厚生会館　　４Ｆ　大教室

企画運営委員会

日　時　７月20日（月）　ＰＭ６：30
場　所　厚生会館　　４Ｆ　大教室

【第１８９５回例会】

夏山合宿

後立山縦走
（唐松岳～針ノ木岳）

日　時　７月22日（水）～26日（日）

集　合　７月22日　ＰＭ９：00
京都駅烏丸口改札前

コース　22日　ＰＭ21：47発リゾート白馬に乗車
23日　ＪＲ白馬駅－黒菱平…八方尾根…唐松岳…五竜山荘（泊）
24日　五竜山荘…五竜岳…鹿島槍ケ岳…冷池山荘（泊）
25日　冷池山荘…爺ケ岳…岩小屋沢岳…赤沢岳…針ノ木岳…針ノ木小屋（泊）
26日　針ノ木小屋…蓮華岳…針ノ木小屋…針ノ木雪渓…扇沢－ＪＲ信濃大町駅－ＪＲ京都駅

担当者　大塚孝之（工事課　内765）

備　考　◦剱岳と高山植物を眺めながら楽しい４日間を過ごしましょう。
◦参加希望者は担当者まで事前連絡の上，７月11日の夏山合宿トレーニングに必ずご参加下さい。
◦参加申込みしめ切りは７月11日
◦１／５万図　白馬岳，立山，大町

【第１８９６回例会】

月　　山

日　時　７月29日（水）～８月２日（日）

集　合　京都駅烏丸口改札前　ＰＭ８：00

コース　京都発８：57－ＪＲ－鶴岡－月山八合目…月山山頂小屋（泊）
31日　小屋…湯殿山…湯殿登山口－鶴岡－村上－瀬波（泊）
１日　瀬波－岩船港－粟島…小柴山△266ｍ…往路下山…粟島（泊）
２日　粟島－岩船－村上－京都

担当者　吉田　武（梅津　内654）

備　考　費用　75,000円。
日帰り登山用具。

【お知らせ】

第47回
国民体育大会山岳競技
近畿地区大会

日　時　７月25日（土）～26日（日）

会　場　左京区大原及び静原一帯で行われます。

【平成４年度の部費について】

部費を納入していただく季節となりました。部費は各支部の会計委員の方にて取りまとめていただき，下記までお願いします。

記

事務局　　井戸澄夫（設計課　内743）

山声雪語

今西錦司先生の逝去を悼む

岡　田　茂　久

6月15日，今西錦司先生が90才の天寿をまっとうし大往生された。今西錦司先生の業績はいまさらここで申し上げるまでもないが，人文科学分野においては独創的な「今西自然学，生態学」として知られ，世界の定説となっている「ダーウインの進化論」に対して，カゲロウの幼虫の生態研究から，「棲み分け理論」を提唱した「今西進化」は，つとに有名である。

さらに日本モンキーセンター，京大霊長類研究所の創設も先生の力が大きく，「高崎山の猿に始まる芋洗い現象」が全国の猿類に広がった現象等，近年の「猿の小石遊び」の全国伝搬からも実証されてきているが，文化の伝承は人間だけのものではないと提唱される等，ユニークな「今西学」を次々と生み出された。

また，趣味と仕事は一致すべしと，生態学のフイールドである自然と山をこよなく愛し，探検家としても有名で，戦前から蒙古，アフリカ，ヒマラヤと世界各地の学術調査も多く手掛けられている。同時に登山家としては，日本山岳会マナスル遠征の登山隊長始め，昭和60年には八十三才にして「日本千五百山登山」を達成される等，その偉業も多い。千五百山登山では，その対象が400ｍ以上にして山姿秀麗，風格を兼ね備える山にこだわった難しい条件だ。本来の人文科学の著書以外に山の著書も多く，「山と探検」「ヒマラヤを語る」「そこに山がある」等は先生の面目躍如といったところで，「山を忘れて，岩ばかり求めるのは登山家ではない」の名言には，喝采を送ったものである。しかし，本物にこだわる先生が，山仲間から贈られた一等三角点標石のレプリカを，自宅の玄関先に据えられたのは，プラモデルに興じる子供のような遊び心をも，茶目気たっぷりに持ち合わされていた証である。

我が京交山岳部とは決して無縁では無く，先生は創設期の山岳部顧問でもあり，以来現在に至るも「京交山岳部報」を送らせて頂いてきた。十二支会を通じて故宮後部長，伊藤先輩を始め，当部の諸先輩方との交流も深く，特に坂井久光氏とは知る人ぞ知る親交で，渓流の女王アマゴの取り持つ縁とも聞く，先生の大好物とうかがったアマゴの主食が，「棲み分け理論」を生み出したカゲロウの幼虫であるのは，偶然の一致であったろうか。

数年前，日本山岳会京都支部の創設に当り，私にも参加さするべしと推薦頂いたのは先生であるとうかがった。創立記念集会で改めて挨拶をした際，「モクー，本音を書きや，いつも読んでるで」と言われた。一瞬，何の事かと判断に迷ったが，すぐ「山声雪語」の事と気が付いて，背中に汗がにじむのを感じ，当時すでに先生の目は相当に悪く，娘さんが代読されるのを聞いておられたと後で聞くにつれ，我々のつたない部報の隅まで気を配って頂いていたのかと，改めて感激したのを思い出す。学問上の交流だけでなく，ざっくばらんに我々とも気安くつきあわれる野人で，それだけにヘソ曲がりで強引なところもあったようである。

先生が三高時代，元南極越冬隊長の故西堀栄三郎氏たちと定められた「山城三十山」は，今また当部の大槻副部長が主管して，日本山岳会京都支部でリバイバルしている。復活を先生も喜んでおられたと聞くが，まだ三十山の半ばである。せめて完登を報告したかったものである。

今では，京交山岳部のオハコともなってしまった登頂時のバンザイ三唱と，下山時のヤッホー三唱は，今西錦司先生が京交山岳部に残された伝承の一つであることも記憶しておきたい。

我が国の登山探検史上に一時代を画した，桑原武夫氏，西堀栄三郎氏に次ぎ今西錦司先生も，ついに京都の山々から去っていかれた。今一度，自由奔放にしてロマンあふれる偉大な先生の足跡を偲びたい。

【第１８８４回例会】

雨引山・小都知峰　報告

伊　藤　潤　治

14日は雨でしたが，延期を重ねた31日は晴天でした。九度山で下車すると駅は，登山者があふれていて，九度山とは，こんなに人気のある所かと感心しました。

九度山の名は，眞田幸村居住の地として有名です。九度山を訪れたからには，眞田庵に寄るべきでしょう。しかし立寄ったのは，私たちだけ，由緒のかずかずを見て，眞田紐を記念に購入してきました。

登山口の慈尊院に行って驚きました。境内は登山姿の老若男女で満員，尋ねると，この盛観は，地元伊都郡連絡協議会主催による「高野山町石道ハイキング」で，460余名のご集合でした。

従って一時は，その渦中に身をゆだねることになりましたが，集団はやはりさっそうたる気鋭ぞろい，しばらくで，吸いこまれるように登って行かれた。

若葉茂る柿園，レンゲ・タンポポの道を縫うていると，どこからなのか，ミカンの花らしい甘い香り，ウグイス・ホトトギスの美声。目には，紀ノ川の長流や尖峰をまじえた高野の諸峰が見晴らせました。

たしかに，これこそ『言志耋録』の「老人は宜しく流水に臨み，遠山を仰ぎ以て炊谿の観を為すべし，眞に是れ養生なり，もし，或る風寒をおそれ常に被を擁し室に在るは，即ち養に似て養に非ず（３２７）」の感動ではないでしょうか。

果樹園地が終り植樹林に入ると，花名を知らぬ花々，ツツジのいろいろ。一町ごとに迎える五輪塔型町石，そして気がつくと，小石仏がお座りになっている尾根でした。

つまり道標完備に安心のあまり，雨引山道を見落してきたのです。幸い，すぐ，あれだったのかと，山下君が分ってくれて，雨引山は引返して登りました。

雨引山は，弘法大師ゆかりの山城国神泉苑の，善女龍王が勧請してあり，最近まで旱魃の折には，雨乞い神事が行われていたそうです。平坦な510ｍの頂きに，自然石に刻まれた「善女龍

王」は，なぜか鉄柵を巡らした中。辺りは，桜の巨樹・文化丁卯歳建の石燈籠一基・朽木の鳥居，樹根（昭和39年の台風で倒れた大楠か）という異様なたたずまい。なお，蓋をとれば，必ず雨が降ると伝えられる雨壷を蔵するため，雨壷山の別名もあるとか。

その神前で昼食をいただいていると，急に暗くなってきた。雲がかかっても雨になるらしいので，四等△477.3ｍを割愛して，町石道を急ぎました。一里石と144町石を過ぎた辺りから湿っぽくて，六本杉で，はっきり雨が降りはじめたのを，かまわずその先133町石から尾根に上り，茂みを分けること20分で，老朽の櫓・測量棒のある小都知峰Ⅱ△684ｍ（大筒ケ峰点）につきました。

意外であったのは，標石が著しく傷つけられていたこと。理由不明であったのは傍らに積み上げてあった板状岩石のこと。うれしかったのは，知らぬ間に雨がやんでいたこと。それと，△からの南尾根が！思わず歓声のあがる打って変ったさわやかな疎林であったこと。

その快適な尾根を，町石道と会う鞍部で，町石道へ出ずに，作業道をとって行き詰ったあと，戻って，送電塔のある小尾根下り巡視路を探す内に，南海コースが現れ，たんたんと不動川に下山。上古谷駅への登りかえしは，登り尽したという痛快さと充実感のあふれるものでした。

参考，５月31日京阪四条６：39・九度山９：10・雨引山12：10～50・六本杉13：40・小都知峰14：10～40・上古谷16：46・京阪三条19：20・

〔同行〕山下周道・小森　造・伊藤潤治

【第１８８５回例会】

大　段　△７９５.０ｍ

鷲　見　敏　一

予定通り，午前７時壬生を出発，周山－安掛－田歌を経て須後へ向かう，山間部では北山杉と燃えるような新緑のコントラストとの調和が眩しく，愛でながら楽しく走行すること１時間20分位で須後に着く，早々に身支度を整え京大演習林事務所入口にて仮入山申請の届けを済ませて出発する。構内へ入ると事務所の横に京大演習林資料館が立っている。（機会があれば是非館内を見学したいものである。）事務所前より由良川源流左岸沿いに敷設されているトロッコ軌道に沿って進むこと20分杉立の灰野（廃村）に着く。（灰野川に掛かる木馬橋を渡ると人家の屋敷跡と分かる石垣が残っており昔の面影を懐かしめる。）ここより佐々里峠へ通ずる登山道に入るが，はっきりした道標も立っており迷うことはない。（昔は，この登山道を利用して京都広河原より佐々里峠を経て灰野～芦生，京大演習林へと入山する登山者が多かったが，今は交通事情が整備され，この登山道を利用する登山者は少なくなったのではないかと思う。）

再度身支度を整え灰野谷の左岸を道標に沿って佐々里峠への登山道にはいる。足元のしっかりした急な登山道をジグザグに登ること20分，身体もほぐれてちょうど心地よい汗をかいたころ巻

道になる。２～３箇所路肩が崩れたりしたところもあったが難なくに通り過ぎる，この辺りブナの木が多く萌黄色の新緑が山を明るくしていて，ところどころに杉の大木が根を張っており，一部朽ち果てながらも片方の一部で尚も新しい息吹を燃やし大木になろうとしているのが印象的に映る。巻道を10分ぐらい下り気味に歩くと，灰野谷沿いの道になり，「佐々里峠へ１時間30分」の道標に出会う。谷沿の道を左岸・右岸と渡りながら進むこと15分ぐらいで，右手の尾根へと取り付くことになる，この取り付き地点もわりと急登でありジグザグに登ること15分ぐらいで主尾根筋へ出る。（尾根筋は熊笹で覆われているが道ははっきりしている。）小休止，北東後方にピーク730，前方にたおやかな大段の屋根筋が見え，大小３つのピークあり一番奥が大段のピークである。ゆるやかな昇りの尾根道を15分ぐらい進むと，多くのクマザサで覆われている佐々里峠と大段への分岐点に出会う。右の大段への尾根に取り付く，クマザサで覆われ若干ルートが分かりにくいが古いリボンやテープに沿って背丈以上のクマザサの中を進むと，二つ目のピークを越えた頃から歩きやすくなり50ｍぐらい下って，又昇りとなり頂上へと出る，三等三角点大段795.0ｍである。（地図によっては，大段谷山と記されている。）頂上は，広くはないがブナの樹に囲われた明るい台地である。登頂を祝して「バンザイ三唱」をしたのち，少し早いが昼食とする。

当初，帰路は佐々里峠へと予定していたが，車両等の都合もあり往路を下山することとなる，昼食後，下山する途中ちょっとしたアクシデントがあったが，山野草「こごみ，ねまがり茸，ふき，わらび，芍薬の花」等を鑑賞しながら下山した。

〔コースタイム〕

５月17日　壬生７：00－須後８：20～８：30…灰野（廃村）８：50～９：00…巻道９：20…谷川９：30…主尾根出会10：00～10：10…佐々里峠～大段分岐点10：25…△大段795.0ｍ10：55～11：40…灰野（廃村）14：00～15：30…トロッコ軌道沿い散策…須後15：50

〔参加者〕横井襄二，伊豆蔵清，原田加津子，鷲見敏一，鷲見寿末子

【 個人山行 】

湖北の秘峰白倉 1,270.7ｍ

坂　井　久　光

５月10日京都駅発７：11のＪＲで長浜８：36着バス高山行に８：45乗車，終点９：30着，姉川支流草野川沿の車道を歩き，鳥越峠への分岐二股に着く。

思い起こすと30数年前，田中忠久と二人で高佐屋旅館に一泊し，早朝出発，鳥越峠経由金糞岳へ登った思い出があり，釣人の姿や野良で働く人を眺め，草野川沿の林道を進み，橋を渡って辿視路の登山口に９：55着，ジグザクの急坂を登って鉄塔に出て支尾根の植林との境堺の旧道を辿って11：37奥山1,057ｍの三等三角点に着き，昼食休憩,展望は林の為全くない。北へ尾根筋を辿る

が，藪がひどく巡視路に出て枝尾根を下った。途中気がついたが，白倉へ向う送電線が眺められたので，戻らず一旦小谷へ下り，ワサビの茂る谷水を飲んで一服。谷道を下って出合から谷を渡って巡視路を辿り小谷を高巻き枝尾根を登った。全く好天でひたすら細い山道を登っていると突然ガサッと音がすると眼前約10ｍ上手を熊が横切って谷へ消えた。一瞬だが２ｍ位の褐黒色の熊でハンターにやられず健康で暮らせと見送った。道は熊の逃げた方の尾根を高巻いて小さなジグザグで鉄塔に出た。此所は展望も良く伊吹やその連峰がよく見え道も此所からよくなり，伐採後の桧の植林帯になっており，一登りで稜線に出てブナ林の中を登って巳高山との分岐を通り，一登りで白倉三等三角点へ。附近は小広く石祠があり，周囲が林で展望は良くない。14：37～50

一休みして往路を上尾分岐に戻り，上尾を下山。林道の登山口に15.47，高山に16.35～17.05。高佐屋の婆さんから昔，娘が赤ん坊の頃，今西博士一行がスキー持参で来られ，主人と草野の人と２人が案内して金糞岳へ登られ，スキーで下山。主人等は枝を切ってソリを作って下山して帰って来たことを憶えておられ，私等の泊った頃は二児と年子の三人娘が年頃になって今は孫があるとか。

バスで長浜17：51～18：05ＪＲで京都駅19：14着，久しぶりに湖北の山を登って来た。

高佐屋の主人の話では，白倉の西側に石楠花の群落があり，今は見頃だとか。残念乍ら見て来なかった。時間があれば，金糞岳へ縦走したかった。

【 個人山行 】

上州・甲州の山旅

服　部　正　義

今回の山旅へ出発の前に，大峰奥駈七面山（1,624 m）（近畿百）に行者還トンネル西口から二度目の弥山，八経ケ岳（1,914ｍ）をへて，七面山に登らせてもらいました。

５月21日，七面山山行から４日間完全休養。女性もお酒も断ち体調を整えて，午前勤務終了後一路高速自動車道を利用して，最初の目的地岩菅山に５月22日，ＡＭ４：30に荒板沢の奥志賀林道登山口に到着。

岩菅山（2,295ｍ）（快晴）

食事を済ませ休憩。ＡＭ５：30登山開始，５分位登山道を登ると一ノ瀬水利組合の用水路に突き当る。

登山禁止のカンバンが立っているが，３時間ほどのおゆるしを願って用水路横を武右エ門沢まで歩く。

左前方に岩菅山ピクを見て，登高意欲にかきたてられる。武右エ門沢から５分位いで荒板沢の丸太橋を渡り，沢で水を補給，冷い水で顔を洗い，すきっとした気分でこれから尾根の登りにとりかかる。

荒板沢から65分で，標高2,020ｍのノッキリに着く。途中ノッキリまでの屋根は残雪でアイゼンを付け，トラバスする。

ノッキリから12分で山頂に。まず最初に目につくのは昭和４年８月に秩父宮妃殿下が登頂された記念碑，そして祠，左手少し下った所に避難小屋あった裏岩菅山よりに少し傷付く一等三角点。

まさか岩菅山から，佐渡ケ島が遠望出来るとはラッキーな登山，写真を収め往路下山。次の山横手山に車を走らす。

横手山（2,304ｍ）の駐車場に車を止め，春スキーでいっぱいのゲレンデ横を17分で横手神社を参拝して，二等三角点山頂に着く。

雨行があやしい，写真をとり一目散にゲレンデを下山して，係員に注意を受けたので，登山道の確保しておいてくれと言ったとたん，カミナリがとどろく。

次の山，浅間隠山に雨とカミナリの中を北軽井沢町に車を走らす。

浅間隠山（1,757ｍ）二等三角点

北軽井沢町まで来ると雨も上がり，Ｒ146を左折，高崎市方面ゆきの県道を通り二度上峠（1,390ｍ）の浅間隠山登山口に着く。

登山口は峠から下って二つ目のカーブの左手に浅間隠山90分の立看板があり，天候も回復してきたので，ガス等を持って上がり，山頂でゆっくり浅間山等々の山々を見ながら昼食と決め，65分で祠のある二等三角点山頂に登高する。

山頂からの浅間山・妙義山等々の山を遠望して，足先を心臓より高くして２～30分仮眠し，往路下山して途中分岐点から尾根をとり昔の登山口に下る。

途中のピクでお守り袋が何百個と木の枝にくくりつけてあり，この地方独特な風習だなぁと見物して二度上峠に降りる。

次の山，東籠ノ塔山に向って北軽井沢町から地蔵峠に車を走らす。

東籠ノ塔山（2,227ｍ）一等三角点

地蔵峠までは，アスファルト道路で，ゲートからは少し荒れた砂利の林道を約10分位い上がってゆくと，池ノ平登山口駐車場に着く。

この林道は５月31日～10月31日までの間，午前７時30分から午後５時までゲートが開いていますが，それ以後は鍵がされますので注意して下さい。

池ノ平駐車場から20分で黒い御影石の一等三角点の山頂に登らせてもらう。

往路下山して地蔵峠まで下り，湯ノ丸山（2,103ｍ）に40分で登り，この山頂でビールを飲み，本日の山登り終了する。

鹿沢国民休暇村に戻り入湯前に（入湯代500円）夕食をたのみ，ゆっくりと汗を流して夕食をとり，周囲はまだ明るいが車に戻り６時間程熟睡する。

入笠山（1,955ｍ）二等三角点　（快晴）

５月23日　ＡＭ１：20に眼がさめ，休暇村の駐車場から一路，入笠山に車を走らせる。

地蔵峠から東部町に下りＲ18で小諸市，Ｒ141佐久町，小海町，清里から右折して八ケ岳公園道路を無料で利用させてもらい，小淵沢町。Ｒ20に出て富見坂を上った所の信号を左折。

入笠山まで9㎞の案内板があり，深夜なので思っていたより早く富見町に着く。98%がアスファルト道路で2%が砂利道。最後入笠山，山頂部分を左にまくように下り，突き当りをマナスル山荘の看板を左に入ると登山口。

十分で山頂に登ると，目の前に八ケ岳，富士山はもちろん，北，中央アルプス，御岳，南アルプスの山々を拝み，ハダカになり八ケ岳をバックに写真をとり，往路下山して次の山，櫛形山に向う。

櫛形山（2,052ｍ）奥仙重三等三角点　（晴）

R20から韮崎市R52で櫛形町に入り「県民の森」の案内板に従って県道を登って行くと駐車場に着く。

今回は中尾根コース（360分コース）を選び登山，75分で櫛形林道を横断して，60分で唐松岳，裸山（アカメ平）方面の分岐で裸山に登り，頂稜から櫛形山，山頂に着く。

正面に富士山を仰ぎ，木立の間から南アルプスの山を遠望して，櫛形山の最高点，奥仏重の三等三角点で記念写真をとり，分岐点まで戻り，南尾根コースを下り，林道に出て中尾根コースに戻り往路下山。

天候も下り坂，富士山も雲の中，今夜の宿泊地，赤石温泉（金山）に午後6時集合でしたが，午後2時に旅館に着き，さっそく温泉に入湯。

入口は別々で入湯時間を男女規制してあり，小生は男性の入湯時間と確認してゆっくり汗を流していると，女性の声がして，女性の声がして中年マドンナ4人が堂々と入湯，小生は岩陰からじっと見るしかない。山でこんなに心臓がどきどきしたことがないのに!!　キャッというかん高いさけび声，しかたなしにこの時間，男の入湯時間でっせと声を掛けると，そんは規制がありましたんと一人一人小言を言っておられる。

さて，こまった風呂から上るタイミングが，勇気を出しておさきにといって脱衣場まで退散。あと10分も20分も湯に漬かっていると上気しているだろう？

明日の烏森山（1,907ｍ）点名大峠例会に備えて早い目に耳せんをして眠る。小生も2回目の例会ですが，今回も小雨の中，源氏山のルートはしっかりしているが大峠（1,907ｍ）は赤い布の印とかすかな踏跡があるだけで，メンバーの人々と無傷の一等三角点に触れることが出来ました。往路，静岡の新ハイのメンバー30数名と，例会のメンバー20数名の足跡で立派な登山道が出来た烏森山登山でした。

下山途中，タラの芽を頂戴しておみやげとして持って帰らせてもらい，女房に天ぷら・おひたしを作ってもらうか。

往路下山，現地解散でR52に出て身延町を通り，東名清水ＩＣから無事帰洛する。

【 個人山行 】

鈴鹿・雨乞岳登頂報告

津　田　　実

鈴鹿の雨乞岳には昭和62年12月13日に1,670回例会で大槻，三橋さんと３人で鈴鹿スカイラインから入り，武平峠に抜けている。（詳細は部報424号の拙稿を，ご参照ください）

そこで今回は，甲津畑から昔の千草街道を登ることになった。甲津畑集落の狭い道を抜けると左側に広い林道が渋川沿いにあったのでこれ幸いと車を入れたが林道は工事中で渋川を渡る橋で終わっていた。その橋の手前に右に入る山道があったから車を駐めて歩き出す。

道は渋川と離れて杉林の中を高度を上げて行く。その杉林の道は少しの間は簡易舗装がしてあったが，舗装が切れ地道になる付近からは，両脇に自然石が積まれ，先人の草鞋で踏み固められた地面は言い知れぬ温もりを感じさせる。

近江と伊勢を結ぶ古い間道は幾つもあるが，鎌倉時代から開け，1,000 mを超す峠越えの長い道は此の道しかないだろう。

ものの本に依ると天秤棒一本を肩に，この峠を越えて遥か東国まで商いにでかけた近江商人が通った街道とあった。

軈て，暗い杉林のなかに石造りの祠が現れる，これが桜地蔵である。その由緒は知らぬが，遠い昔から旅人の安全を見護ってこられた，お地蔵さんに叩頭百万辺，山旅の安全を願う。

暗い杉林の中の道はなおも高度を増し道幅が稍，狭まってくると分岐があり「大峠，綿向山」との標示があり，吉田君が「帰りは此処へ出る」と云ったが予備知識がないのでボケーと聞いていた。

依然暗い杉林の中を黙々と歩いて行くと小渓があり橋は崩落して跡形もない。仕方なく飛石伝いに対岸に渡り少しで蓮如上人遺跡と彫った石碑が立ち，付近にシデの大木が鷲が羽根を広げたように立ちはだかっていた。それからはシデやナラの大木が幾つも見られた。

今までの杉林がいつの間にか雑木に変わり，熊笹が現れると突然峠に出る。杉峠とはよく云ったもので杉の大木が厳然と天空をさしていた。何百年も昔から此の地にあり，人の世の変遷と此処を通る旅人の哀歓を見届けてきた老杉もその命を終わろうとしていた。そして，その杉の向こうに伊勢湾と知多半島らしきものが微かに望見できる。此処から雨乞岳は近い頑張ろう。

雨乞岳への取付きは，熊笹の中の急登で持参の革手袋で笹を摑むが滑って握力がいま一つ，こんな場合は布製の方が適当かも，熊笹と雑木の混在する地点まで登ると左側に小さい池が現れた。こんな高地に池があるとは，この池に龍神様でもおられたのか？と心の隅を掠める。と，前方が開け見覚えのある標識があった。雨乞岳三等三角点1,238.0 m である。

奥村さんと，吉田さんは地図を片手に周囲の山々を説明してくださるが，うわの空。天気の好いうちに食事を終わらないと何時，変わるか分からない。

今までの快晴が一転，黒雲に追われて慌ただしい食事の後，予定どおり大峠へ向かう。山頂か

ら少しは背丈を越す熊笹を掻き分け，足元の踏跡と所々笹に付けられた赤いテープを頼りに，元気のよい笹との格闘の末，西雨乞岳から右折，下りなり少しは楽と思ったが，またもや，笹藪の中のトラバース径（判然としない踏跡）少し前者と離れるともう進路は分からない。

美濃の山でヤブの歩き方は少しは教訓を得た心算だが鈴鹿の山では，また，別のご教導にあずかる。でも地形と進路を教えて貰っているし，赤いテープのおかげで，何んとか熊笹の熱烈歓送から解放された。

其処は痩尾根で右も左も断崖絶壁震え乍ら立木に縋り，滑り易い急斜面を降ったが老体の悲しさ見事に滑落，お尻の着地を繰り返し何んとか大峠に無事辿り着く。

此処は標識がなければ峠とは分からない所だが地図では綿向山と，野洲川ダム・雨乞岳・甲津畑との十字路である。

これからは下りで少しは楽だろうと元気に歩き出したが，天は無常にも老体に沢歩きを強いることになった。

源流部には細々と踏跡があり何んとか下れたが，水流が現れるころから踏跡は消失，獣の足跡が散見されるようになると段々怪しくなり，下るに従って時々残る径の跡も各所で崩落。でも所々に赤い布切れが吊ってあるのと，今までの経験で下流をめざして下って行ったがとうとう進路が分からなくなってしまった。

すると，奥村さんが対岸に赤い大きな布切れを見付けてくださり，飛石伝いに渡り，少しヘズルと杉林に続く小道があり，朝方通った千草街道分岐点に到着。少憩の後，駐車地点に戻った。

平成４年５月25日（月）　曇り後晴れ

参加者　吉田，奥村，津田

〔コースタイム〕

三条京阪７：00→東ＩＣ→八日市ＩＣ→永源寺甲津畑林道着８：15～８：25→桜地蔵祠９：11→鉄板の橋９：16→大峠分岐点９：31～９：42→蓮如上人旧跡９：55→Ｒ　10：16～10：25→杉峠10：50～11：14→雨乞岳△　11：44（昼食）12：43→西雨乞岳12：54→清水ノ頭13：19→右折点13：40　Ｒ　13：43～13：52→左折点→大峠14：20～14：26→分岐点15：01～15：09　→鉄板ノ橋15：20→桜地蔵祠15：23→駐車地点16：00～16：06→八日市ＩＣ→京都東ＩＣ

例　会　報　告

例会No.	目　的　地	月　　日	天候	担　当　者	参　加　者	記　　事
1884	雨引山 小都知峰	（日程変更） 5月31日		伊藤　潤治	山下　周道 （他1名）	（別稿詳報）
1885	大　段	5月17日		鷲見　敏一	横井，伊豆蔵 原田，鷲見寿	（別稿詳報）
1886	知世路谷山	5月31日		大槻　雅弘		7月11日に延期します。

部　員　動　静

目　的　地	月　　日	天候	参　加　者	記　　事
湖北の秘峰 白　倉	5月10日		坂井　久光	（別稿詳報）
音　羽　山	5月17日	曇	津田，今道 井上，池田 他11名	牛尾キャンプ場付近にて焼肉で腹ごしらえ。 腹ごなしに牛尾観音から音羽山山頂を経て 大谷駅まで抜けました。
上州・甲州の 山旅	5月21日 ～23日		服部　正義	（別稿詳報）
信州下伊那郡で 4山	5月22日 ～24日		伊藤　潤治 他2名	青田山Ⅲ△1,707 m，梅村山Ⅲ△2,113 m， 馬原山Ⅲ△1,044 m，旭山Ⅲ△1,025 mに登頂。 武田信玄ゆかりの隠湯，小川温泉に入浴。
雨　乞　岳	5月25日		奥村，津田 吉田	（別稿詳細）
府民登山大会	5月31日		奥村，横井 津田，大倉 岡田，方山 鷲見敏 他70名	宝ケ池，雲母坂…大比叡Ⅰ△　…日吉大社

目　的　地	月　　日	天候	参　加　者	記　　事
丹後の山	6月　2日	晴	伊藤　潤治	快晴の予報につられて，タンゴ鉄道公庄駅から大江町在田に行き，尾根に取付いて，東に登り陣取山△259 m。南に方向を転じて，奈良原分岐に下山。次いで室尾谷観音寺を参拝して，鬼ケ城登山道により鬼ケ城544 mに登頂。大観を楽しんだあと，西南そして西北に下り，さらに西に向い福知山市安井へ出て，タンゴ鉄道牧駅まで歩いてきた。鬼ケ城頂上も秀逸だったが，陣取山の樹林歩きは特筆ものであった。
東海自然歩道	6月　3日		津田，今井 他1名	水飲白毫寺～天理
因幡国 陣鉢山	6月　6日 ～　7日		伊藤　潤治 他3名	6日。日本山嶽志に収録で，山陰百山にも選ばれてある，因幡国の陣鉢山△1,207 m（若桜）に念願かない登頂できた。ブナの美事な林立に，讃歎随喜する山であった。翌7日は，昨秋以来の宿題，大段△1,255 m（坂根）のすずこの網をくぐり抜けて，登頂したものの平頂のすずこに手古摺っていると心配していた雨が降りだし，点名「尾見」の因縁なのか，△に行きつけず，おめおめ下山してきた。大段は，我れと思われるお方に，ぜひ登ってもらいたい藪山である。
大　段 △795.0	6月13日	晴	山口　雅直 他1名	MTBで芦生演習林へ入った際に灰野から徒歩でピストンしました。手軽な山行のつもりでしたが，私も転倒や虫刺されでえらい目にあいました。

雑　　報

※P15もご覧下さい。

▲▲▲　6月の集会

日　時　6月11日（木）

場　所　厚生会館　4F　大教室

出席者　（本局）岡田，大槻，古市，和田，井戸，方山，今道，井上

（梅津）吉田　　（OB）伊藤，奥村，津田，横井　　以上13名

内　容　例会報告，例会予定，岳連理事会報告，その他。

部　　員

平成４年６月１日現在
１２９名

ＯＢ部員

近藤　薫
森下　村重
伊藤　潤治
中村　維源
牧　定夫
田中　定勝
山村　敏郎
畑　照人
石田　和男
山下　周道
坂井　久光
奥村　弘信
河村　清
松岡伊太郎
津田　実
笈田　昭
横井　襄二
上田　隆
村　宗松
辻　久雄
今井勇一郎
石田　弘
石川かず栄
北川　晃
森本　清一
楠　とし子
木原　茂
坂田　利春
上島　和彦

本　局

大野　滋久
牧野　健
柳田　晃
井上　一夫
古市　昌造
井戸　澄夫
角田　敏昭
山口　雅直
田村　正弘
伊豆蔵　清
鷲見寿未子
大沢　泰
森塚　良郎
岡田　茂久
田中　繁行
近藤　明義
室谷　和彦
多田　義人
三浦　貞義
渡辺　智生
長谷川雅也
宮川　勇
山田　富男
足立　公弘
木下　嘉造
平野　裕
前田　文男
山元　誠一
大切　照男
方山　宗子
大槻　雅弘
佐伯　康介
三橋　勉
沢井　佳三
川原　傳治
原田加津子
上島　弘子
立花　雅彦
若山　裕孝
広瀬光太郎
鎌田　利雄
竹田　勉
大杉　雅晴
和田　良一
大塚　孝之
政　道代
平田　嘉輝
馬淵　拓己
猪飼　康夫
岩野　誠司
山岡　昭弘
鷲見　敏一
中西　哲也
徳野　治
今道　力
池田　茂生
藤原　敬已

高　速

出海　洋三
石田　幸次
河合　秀晃
広瀬　烈
篠田　勝美
今井　武夫
中島　孝生
矢野　聡

竹　田

田村　忠司
大倉寛治郎
岡本　孝
尾川原和彦
松田　誠二
山田　哲也
上村　次男
清水　明
井上　豊

西賀茂

横田　義一
徳田　真三
伊知地文男

梅　津

蛭子野俊雄
吉田　武
花岡　弘武
阿部　義夫

五　条

田中　明
田中　忠久

醍　醐

岡本　勇

横大路

岡本　義弘

錦　林

竹村　芳広

九　条

関本　俊雄

烏　丸

台川　敦美
久保　忠三
山本　俊夫

洛　西

武田喜久郎
竹井　章
加門　勝弘
井口　寿雄
谷口多加志
服部　正義
佐々木敏雄

市役所

中山　忠之
荒田又之助
西尾　直樹

▲▲▲ 他山岳会の報告（受贈分）

2月号　烏帽子

5月号　愛宕ニュース

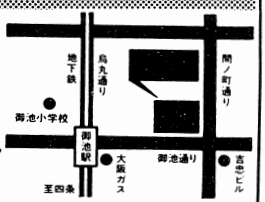
6月号　北山，京都山岳，木雞，近畿山行，山山友，趣味の登山，青嶺

▲▲▲ オーストリアの大槻貞従さんからたよりが届きました。
山岳部の皆さんによろしくという内容でした。お知らせします。

THE LOG CABIN CO.
H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN
登山道具店　ログケビン
〒604　京都市中京区御幸町通蛸薬師下ル
FAX:(075)221-8069 ☎(075)221-7569
営業時間：午後3時～8時　お問い合せはなるべく郵便か
定休日：月曜日と火曜日　FAXでお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町88
TEL（075）771－3442

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321－0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!
●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!


ビッグホリイケ
営業時間 AM10:00～PM9:00 〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店
Now Out door sports
ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US放出品
ボーイスカウト用品
mountain
〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0546
●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

山山山山……①

しょせん足りないと大山さして行き

大山（標高一、二四六m）は神奈川県の丹沢山の東にあって、雨降山ともいう。六月末の山開きから講中を作り懺悔々々六根清浄を唱えながら頂上の石尊に参詣するのを大山参といった。七月の盆山に登ると天狗様のお蔭で借金の難からのがれられるといういいつたえがあった。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五―七九一―六一二五

小林地図専門店
建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。
株式会社 小林地図専門店
〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
（烏丸通六条東 1筋目下る） ☎（075）351―6598㈹
地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成4年7月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部